

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立方県小学校

校長名 松岡 猛

| 市の重点課題 | 学校の重点項目 | 自己評価 | 達成状況 | 学校関係者評価委員会から | 改善の方向 |
|---------------------------------|--|------|--|--|--|
| 希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や学校評価等を通じて、自校の教育活動の成果と課題を明らかにして改善・充実を図る。 ・「個別最適な学び」を重点に置いて、学び合い活動を充実させる。また、異年齢の学びを取り入れ、互いの違いを認め合い、互いの幸せや生命を尊重し合う集団を育む。 ・3校合同学園構想(教育DX)において、教育活動全般で全ての学年でつながるオンラインとリアルタイム対面で活動し、その可能性を明らかにする。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・「異年齢の学び」や「個別最適な学び」を核にして、「学び合い」を実践してきた。異学年の児童の特性を認め合い優しく接したり、自ら学びに向かう力が身に付いてきたりしている。算数科での学び合いから他教科へも広げつつある。児童間で「聞くこと」に対する抵抗感が少なくなってきた。 「授業がよくわかる」「授業が楽しい」と自己評価した児童が100%となる。 ・3校合同学園構想(教育DX)の2年目となり、オンライン交流とリアル交流のよさを生かしながらどの学年でも複数教科で実践を進め、授業内容の実践・改善・振り返りを重ねながら、教育活動の編成に取り組んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自由進度学習は自分に合った学びができて良い。子供同士が「学び合い」をする場合はアウトプットの相手と学力のバランスが合っていない等だが結果が思うようにならない事もあると思う。そういった場合の支援や見届けをどの学級でもしてほしい。 ・「学校が楽しい」「学校の授業が分かりやすい」の児童の自己評価が「当てはまる」「おおむね当てはまる」が100%となり、教育活動が子供たちに合っていることが分かる。 ・令和の日本型教育を実践するために、校長を中心に、職員が一体となって学校改革を進めていることが分かる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」を具現するために、今後も「学び合い」・「自由進度学習」を核にして、全ての児童が「授業がよく分かる。」「授業が楽しい。」となるのを目指して、方県小学校の学びの質をさらに高めていく。児童の学びを算数から教科を広めていく。 |
| コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針や教育活動の重点について家庭や地域に積極的に情報発信し、協働することの大切さを地域に広める。 ・学校の教育活動について、教職員や児童、保護者・地域住民、学校運営協議会委員等による学校評価を実施・公表し、コミュニティ・スクールの機能を生かして学校運営の改善を図る。 ・小中学校の連携を図り、学習指導要領の趣旨を踏まえて各教科・領域等の指導を行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの充実を図ったり、保護者や地域をはじめ、コミュニティ・スクール組織に異年齢による学び「方県なかよしスクール」の参観を呼びかけたりして、情報発信に積極的に務めた。 ・地域在住、在勤の方に声を掛け、地域人材を生かしたキャリア教育に力を入れ、授業公開することでコミュニティ・スクール機能が活性化され地域との結びつきが強くなった。 ・中学校区内小中5校で、管理職をはじめ、各部会の担当者が連絡を取り合いながら人権を中心として連携を図っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「方県なかよしスクール」の参観や学校行事の参観をする多くの機会があり、学校の様子がよく分かった。特に「6年生ありがとうの会」では、児童自ら考え企画・運営し、心温まる会であった。 ・コミュニティスクール組織のメンバーや地域の企業によるキャリア教育を行ったが、児童は目を輝かせ聞いている。様々なジャンルがあり、生命尊重やものづくりの楽しさ、高齢者福祉など児童、家族、地域、職員が多くのことを学んだ。来年度も継続したいし、何か協力できることがあれば声をかけてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度開催した地域人材を生かしたキャリア教育を広げていく。さらに、キャリア教育にとどまらず、本校の教育課程に地域の人材を生かせるよう人材バンクを募る。 |
| あたたかさど働きがいにあふれる学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・どの職員もICTを効果的に活用し「働き方改革・働き甲斐改革」に生かせるようICT教育推進教師、情報主任を中心に推進する。 ・小規模校の特性を生かし、全職員で全校児童を見守り育む体制を醸成する。 ・単学級の担任の困り感を払拭し合えるよう、職員間の対話を増やし、協働できる職員集団を構築する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT(ロイノート、Teams、ここタン等)をどの職員も標準以上効果的に活用することができ、児童一人一人の学びの過程が分かったり、教育相談や生徒指導上の問題も即時対応できたりした。また、その技能が職員の働き方改革につながり、効率的な仕事につながっている。 ・全校児童を全職員、保護者、地域で見守ることができる小規模校のよさがどの場面においても生かされ、児童が安心して生活できていることが学校評価に表れている。「学校が楽しい。」と評価した児童は100%である。 ・職員研修ではICTによる対話モリアル対話も多く取り入れ、活発な交流を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童も職員も「いじめ」に対する意識が高く、学校評価にも表れている。 ・児童と保護者の学校評価がほぼ一致し、児童は自己肯定感が高く、保護者は本校の学校教育に共感していることが分かる。また、職員も研修を積み、努力していることが分かる。 ・学校運営協議会と支援推進委員会が参観した「6年生を送る会」は、児童や職員の一体感や温かさを感じた。保護者にも広く参観してもらおうと、より一層本校の学校教育を理解してもらえたと感じた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これからも、児童と職員が楽しく通える学校を目指し、小規模だからこそできる特性を生かして自律・共生・創造を基盤に学び合える職員集団を目指す。 |
| 災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・非常事態に対する危機管理意識を高め、緊急時の速やかな対応に努める。 ・「命を守る訓練」やいじめ対応等の危機管理対応マニュアルを実践を通して見直す。 ・日常的に災害等に対する様々な場面を想定し、全職員が自ら緊急事態に備え自分ごととして捉えられるよう研修を設定する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・常に危機管理意識をもち、自然災害や野生動物の目撃に対する対応、児童のけがなどの緊急時には組織を生かして速やかに対応した。 ・地域の特性である土砂災害危険区域であることを全職員で共通理解し、垂直避難訓練に生かすことができた。 ・「命を守る訓練」の担当者及び学校安全管理者が核となって、多種多様な非常事態に対する危機管理意識を高め機動的に対応できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・下校時の交通安全指導の強化を地域で検討したい。それに伴い、交通安全教室の内容について再検討したい。内容は、例年通りの講話・ビデオ鑑賞となったが、一般的な内容であり当地区と特に注意しなければならない注意事項について強調する必要がある。 ・校庭の樹木について、歴史ある松の木の大枝の落下は地域も驚いている。迅速な対応を望む。 ・地域防災訓練を地域ぐるみで考えていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域に支援をいただきながら、地域に即した交通安全教育を行う。 ・自治会等、地域の関係機関と相談し、児童にも地域防災に参加し、防災学習を地域ぐるみで行う仕組みを考えていく。 |
| 教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報について情報資産の分類に応じて適切に管理を行う。 ・財務や納入金の適切な取り扱いがなされているかを確認し、有効に運用できるようにする。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・情報資産や学校メールの管理は、ICTを活用して整備したり、担当職員に配付したりして複数の目で適切に管理することができた。 ・学校予算を鑑み、安全安心な教育環境のために職員への安全点検を徹底し、修繕や購入物品を精査して即時対応をし、児童のために活用している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学校評価でも「学校は、学習や遊びなど生活するのに安全で整っている。」が「当てはまる」「おおむね当てはまる」が100%となり、安全管理への意識が高いことが分かる。 ・いつ参観しても、児童のDXの力がすばらしい。今の段階ではよいが、今後デジタルシズンシップ教育を進めたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童のDXの能力がさらに高くなることが予想されるため、今後も保護者も巻き込んだデジタルシズンシップ教育を充実させる必要がある。 |

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/katagata-e/>